

審査の結果の要旨

氏名 イッサラタツマヌーン・ウィモンラット

本論文は文化遺産保全計画における伝統的都市コミュニティの役割に関して、バンコク都心部を事例として詳細に考察し、その歴史的变化と現状、さらに今後のあり得べき姿を明らかにすることを目的とした論文である。

論文は4つの部から成っている。

第1部は研究の背景及び位置づけ、既往研究について論じたものである。研究の枠組みを述べた第1章に続いて、文化遺産保全計画にかんする既往研究を概観し、とりわけ地域コミュニティの関与を論じたものを中心にその論旨を追った第2章から成っている。

第2部は、バンコク都心部における文化遺産保全計画のこれまでの発展過程を跡づける部分である。2つの章から成っている。第3章は、文化遺産保全計画の全容に関して、1930年代初頭から1970年代後半にかけての時期、1970年代後半から1990年代後半にかけての時期、それ以降の3つの時期に区分し、それぞれの時期における保全の考え方の変遷、具体的保全プロジェクトの変化等を明らかにした後、現在の時点におけるバンコクの文化遺産保全計画のあり方を歴史的な趨勢の仲で位置づけている。

続く第4章は、地域コミュニティ側の構成のあり方とその変遷を明らかにし、歴史遺産保全計画における地域コミュニティの役割一般について考察する章である。とりわけ1990年代後半にバンコク都庁によって2つの新しいコミュニティ単位の行政組織（プラチャコムとチュムチョン）が導入され、在来型のコミュニティ組織に変化を生じせしめたことが明らかにされている。これらを受けてバンコク都心内の3つの地区のコミュニティ組織のあり方について、詳細調査地区を選定するにあたっての試行的な比較検討が行われ、詳細調査事例としてバンランプー地区を選定したことの理由が述べられている。

第3部は、対象地区における詳細な事例調査とその分析を扱っている。本研究のもっともオリジナルな貢献の部分である。3つの章から成っている。第5章は、バンランプー地区における調査の方法を明らかにし、地区の変遷の概要、コミュニティ組織の変遷の過程、文化遺産保全計画の計画内容の変遷等を明らかにしている。これらを通して、従来の3つの異なったレベルの文化遺産保全計画における地域コミュニティ関与の度合いが異なることを明らかにし、より効果的なコミュニティ関与のための留意事項をまとめている。

第6章は、バンランプー地区における新たに導入された地区行政単位であるプラチャコムとチュムチョンについて、その現況を詳細に明らかにし、祭礼や宗教にもとづく従来型

コミュニティとの関係について調査結果をまとめ、従来型コミュニティが現在もなお有効に機能しつつ、同時に新しい地区行政単位とも共存している様子を明示している。第7章は、こうした在来型および新しいコミュニティ組織が文化遺産保全計画のなかでどのような役割を果たしているのかをインタビューおよびアンケート調査をもとに明らかにしている。とりわけ、意志決定プロセスにおける関与の役割と観光化の趨勢における関係者相互の関与のあり方についてその意義を明らかにしている。

最終の第4部は、論文全体の結論を述べる第8章のみで構成されている。そこでは、コミュニティ組織自体の文化遺産的価値が強調され、多文化を共生させるための合意形成手法としての計画へのコミュニティ参加の望ましい方法が提案されている。

以上、本論文は文化遺産保全計画における地域コミュニティ関与のあり方に関して、バンコクの1地区の事例をもとに、実証的な方法によって、その意義とあるべき形態に関して具体的かつ実践的な結論を導き出した有用性の高い学術論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。